

医学系研究に関する情報公開文書

研究課題名	肝移植後に CT で発見された単発性肺結節に関する後ろ向き観察研究
研究責任者	呼吸器外科 古畑善章
研究機関名	日本赤十字社医療センター呼吸器外科、呼吸器内科、肝胆膵・移植外科、病理部
研究目的と意義	<p>当センターでは 2009 年 3 月より 70 例近い肝移植術が行われ、定期的なフォローアップが行われてきました。</p> <p>肝移植後の患者さんは免疫抑制剤の使用により、肺も含めて感染症やがんの発生が多いとされています。移植後の定期的な CT 撮影で小さな肺結節が指摘されるケースは多いものの、確定診断のための組織採取（生検）には患者さんの負担を伴うため、方針に苦慮する場合があります。なお、肺結節に対する手術的生検の方法としては、胸腔鏡という、手術用内視鏡カメラを用いた傷の小さい方法が最近よく用いられ、従来の開胸生検よりも患者さんの負担が少ないとされています。</p> <p>そこで今回我々は、肝移植後に CT で単発肺結節が指摘された頻度、その肺結節が（胸腔鏡などの）手術的生検に至る頻度、また胸腔鏡生検を行うことは妥当か、安全か、等を検討することを目的とし、本研究を計画しました。</p>
研究方法	<p>●対象となる患者さん：</p> <p>2009 年 3 月 1 日から 2017 年 3 月末日までの期間に肝移植を受け、当センターにて移植後のフォローアップを行った方が対象の患者さんとなります。</p> <p>・除外基準</p> <p>患者さん、またはご家族が当研究への参加を拒否された場合。</p> <p>●研究に使用する試料：</p> <p>(1) 診療録 (2) 胸部単純写真、CT、PET などの画像 (3) 肺病理標本</p> <p>●研究方法</p> <p>診療録から必要な情報を集め、これまでに撮影した画像、肺病理標本を集積し、データベースを構築します。</p> <p>この方法は後ろ向き観察研究という方法で、新たに患者さんへ負担はかかりません。個人名を消去し、代わりに番号などを付与して処理を行う（匿名化）ことで、誰のデータか分からないようにして、統計解析を行います。その結果は、呼吸器病や外科に関する学会、医学雑誌に公表されることがあります。</p> <p>研究に組み入れられることを希望されない方は、担当医や下記の問い合わせ先にお知らせください。その場合、データ収集や統計解析は致しません。</p>
問い合わせ先	<p>日本赤十字社医療センター呼吸器外科</p> <p>〒150-8935 東京都渋谷区広尾 4-1-22</p> <p>担当者：古畑善章</p> <p>TEL：03-3400-1311 FAX：03-3409-1604</p>